

1. 福専寺とお地蔵さん

阿弥陀様をご本尊とする浄土真宗のお寺。江戸時代後期以降、仏の教えを独特の口調で説いて聞かせる「東保流節談説教」の道場として有名になり、多くの子弟が学びました。

境内のお地蔵さんは、貞治2年(1363)9月、沙弥西阿の建立で、兵庫県指定文化財。今から200年ほど前、福専寺のご住職と大庄屋の小野さんの夢枕にお地蔵さんが現れて、川の中から掘り出されたといわれています。

福専寺の東隣は、中世の環濠屋敷（構居）跡で、江戸時代には、林田藩東保組の大庄屋だった小野家のお屋敷でした。

2. 東保大歳神社

鎌倉時代の鵜荘絵図にも描かれている神社。室町時代、毎年お正月には、鵜荘の政所が初詣に来ました。

川島の地蔵



14. 楯岩城跡（太田城跡）

大岩が楯のように並ぶことから楯岩城といわれる太田城は、揖保郡と飾磨郡の境で山陽道（西国街道）を押さえる重要な位置にあります。江戸時代の地誌『播磨鑑』によると、最初の城主は南北朝の頃の赤松刑部少輔（広岡氏の祖）で、その後、天正年中(1566～88)まで栄えました。永正18年(1521)の播磨国守護・赤松義村と守護代・浦上村宗の争いでは、太田城を中心に最前線での緊迫した様子が『鵜庄引付』に記されています。その後、羽柴秀吉が播磨国を治めるようになって廃城になりました。

行程記

萩藩・毛利家当主が、参勤交代の道中を藩の絵師・有馬喜惣太に描かせた街道絵図。街道周辺の名所旧跡に加え、荷駄賃、川を渡る船賃といった情報も書き込み、旅行ガイドのような美しい絵図。

明和元年(1764)に完成した後も、書き込みが加えられて、実用的に使われていたようです。

西国街道（山陽道）に沿って

太田の文化財めぐり

3. 東出の投げ石

（鵜荘ぼう示石）

聖徳太子が鵜荘の境を示すために置いた「ぼう示石」といわれる石。太子の投げ石と呼ばれ、大切に守られてきました。以前は田の畦にありましたが、50年あまり前に荒神社の境内に移され、その後、今のように整備されました。

5. 太田のお地蔵さん

太市に行く道の辻にある石のお地蔵さん。奈良時代に行基が作ったといわれていますが、実際は室町時代のもので、8月23・24日には子供たちなどが集まり、地蔵盆のお祭りが行われます。

6. 黒岡神社・貞国塚

奈良時代、家島まで攻め込んできた新羅の軍船を撃退したという伝説の将軍・藤原貞国と八幡神、平安時代、九州へ向かう途中でここに参詣した菅原道真をお祀りしています。

境内にある貞国塚は、藤原貞国のお墓といわれていますが、実際には貞国より200年くらい古い古墳で、兵庫県指定文化財です。

7. 回国供養塔・伊勢塚

天下泰平を祈って日本全国66ヶ国の霊場を廻って法華経を納める修行（六十六部回国聖）をやり遂げた恵隣の供養塔。宝暦5年（1755）3月の建立。

隣には、『播磨国風土記』に、鼓を打ち鳴らして戦ったのでここを鼓山というと記されている額田部連伊勢の石碑もあります。

10. 山田1・2号墳

街道をはさんで谷側が1号墳、山側が2号墳。1号墳は7世紀初頭、2号墳は6世紀後半の古墳です。「行程記」にも描かれ、街道の目印だったようです。明治時代には、お雇い外国人のゴーランドもここを訪れています。

11. 明治天皇

山田小休所

明治時代、明治天皇は、大昔の天皇がしたように日本各地を視察して廻りましたが、明治18年（1885）夏、中国地方を視察し、その帰り道の8月8日、天皇はここで小休止をされました。

13. 順海寺

真言宗で、播磨四国第12番霊場。元は新温泉町の浜坂にありましたが、大正13年(1924)にこの地に移ってきました。

かつてはこのあたりに、笹ヶ峠（山田峠）のお茶屋（休憩所）がありました。

4. 浄因寺

奈良時代、藤原貞国が異国船退治を祈願した日輪寺を、平安時代に證観法師が再興したものです。当時は真言宗でしたが、室町時代に蓮如上人に帰依し、浄土真宗に改宗して日輪山浄因寺となり、江戸時代には、林田藩主・建部氏の菩提寺になりました。境内には、妙好人・宇右衛門さんの像があります。

妙好人・宇右衛門さん

宇右衛門さんは北村の人。若い頃は乱暴で粗野な人でしたが、ある日ふとしたことから心を入れ替え、仏の教えを深く信心し、まわりのすべてに感謝をしながら生活するようになりました。晩年は、その暮らしぶりから、妙好人（在家の特に信仰心の深い真宗門徒）とたたえられました。

8. 桜井の清水

室町時代、播磨国守護の赤松義村が選んだ名水・播磨十水の一つ。夏は冷たく冬は暖かで、ここを通る旅人は、みなこの水をいただいて一休みしていました。

その後、龍野城主だった赤松広英が、「黒岡にゆきゝの人も心あらば薬ともなれ桜井の水」と詠んでいます。

9. 郷ノ谷古墳群

太子メモリアルパーク内にある6世紀後半の横穴式石室の古墳群。「行程記」に「むかし天から火の雨が降り、その時に地元の人はここに逃げこんだ」という話が記されています。

12. 伊都岐嶋神社

山田の氏神さま。広島・宮島の厳島神社と同じ、伊都岐嶋姫をお祀りしています。正面のこま犬は、江戸時代の文久3年（1863）のもの。神社前の石灯籠は、古墳の横穴式石室の上に立っています。

15. 東南の投げ石 （鵜荘ぼう示石）

聖徳太子が鵜荘の境を示すために置いた「ぼう示石」といわれる石。太子の投げ石と呼ばれ、大切に守られてきました。以前は50mあまり西の田の畦にありましたが、昭和30年（1955）に今の石堂でお祀りするようになりました。

16. 清光寺と 徳道上人堂

西国三十三所観音巡礼を始め、奈良の長谷寺に観音さまを造立した徳道上人は、今から1300年以上むかし、斉明天皇の2年(656)、矢田部に生まれたといわれています。いつの頃か、その生誕地に、徳道上人堂が建てられました。

また、修行中の上人が故郷に結んだ草庵を、室町時代に再興したのが今の清光寺です。

17. 北向き地蔵と 三宝荒神社

神様や仏様は北向きにはしないのに、北を向いているので、北向き地蔵と呼ばれています。天下泰平を祈って六十六部回国聖をやり遂げた釈誓信の供養塔で、江戸時代末の嘉永6年(1853)の建立。

となりは三宝荒神社。永正14年(1517)4月28日、この神社のお祭り（荒神講）で起きたケンカの話が『鵜庄引付』に記されています。

18. 檀特山

「播磨国風土記」には、応神天皇が四方を見渡されたので、大見山と名付けられ、頂上の大岩の凸凹は、天皇の靴の跡とか杖の跡と書かれています。いつの頃からか、聖徳太子が愛馬の黒駒に乗ってこの山に登り、その駒のひづめの跡だといわれるようになりました。

頂上からの見晴らしがたいへんよく、弥生時代の見張り台の遺跡が残されているほか、古墳も散在しています。また、麓には、聖徳太子の感動岩・徳道上人の感動岩もあります。

19. 下太田廃寺

今から1300年あまり前のお寺の跡。今は塔の跡に土壇と礎石が残るだけですが、かつては1町（100m余り）四方の大寺院でした。赤い柱に白い壁、窓は緑と極彩色に彩られ、屋根の瓦が日の光に輝く巨大な建物が見る者の目をうばっていたことでしょう。

20. 福井大池と 文覚上人腰掛け石

姫路市の勝原区や大津区など福井荘の東部の田んぼの用水池。遊歩道などが整備され、いろいろな野鳥の姿を見ることができます。

腰掛け石は、鎌倉時代の初め、福井荘を治めていた文覚上人が、池を修理する時に腰を掛けて指図をしたという石。水路沿いに100mほど南西にあったものを、ここに移してきています。

21. 大歳神社

原地区の氏神様で、若歳神をお祀りしています。お盆の8月15日夜に行われる勇壮な火祭り・原の松明で有名です。

このこま犬は、江戸時代の文化10年（1814）の奉納。まるくてちょっとかわいい顔をしています。

22. 原北町古墳

6世紀末頃の直径約15mの円墳。長さ3.9m、幅1.8mの横穴式石室の玄室に、4つの小さな石棺が納められていました。

1983年に発掘調査が行われ、貴重な古墳として保存されています。